



明石市立大蔵中学校 2017年1月13日 9号



給食タイムズ

あたりまえのありがたさに感謝して・・・

平成7年1月17日、まだ皆さんが生まれる前に、阪神淡路大震災がありました。明石市でも震災により大きな被害を受けました。今年、22年目を迎えました。被災し、多くの人が家族と一緒に過ごせること、蛇口をひねれば水が出ること、温かい食べ物を食べれること・・・など、日常生活のありがたさを実感しました。また、ボランティアの人の優しさにふれ、感謝しました。

避難所では、被災者の皆さん自身や全国からきたボランティアの方々が協力し、おむすびや豚汁などの炊き出しが行われたそうです。そして小学校の給食室からも炊き出しを提供しました。

震災から22年経ちましたが、皆さんは日頃の生活のありがたさに気づいていますか？17日の給食は、震災当時の給食や避難所に近い献立を取り入れています。「あたりまえに食べられる」ことの難さに気づき、感謝して食べることを改めて考えてみましょう。また、いつ起こるか分からない自然災害に備えて防災の意識を高めましょう。



震災当時のライフラインの状況は・・・(平成7年1月～)『明石市の災害と復興への記録より』

電気・・・全市で一時停電、当日中に復旧

ガス・・・明石川東側で一時停止、1月30日から工事開始

2月21日に全市復旧

それまでは、カセットコンロ、ガスボンベなど利用

水道・・・当日、70%断水、給水タンク車による応急給水や浄水場においても24時間体制で給水

1月31日に全市復旧

1月17日の献立

ごはん

味つけのり

高野豆腐の煮物

豚汁

千キンソーセージ

牛乳



当時、避難所で提供されることの多かった豚汁は、温かい汁物として喜ばれました。また、物流もストップしたため、小学校給食でも調理しない簡易給食が続きました。

1年生は、スキー実習の為、給食は喫食できませんが、実習先で、また2年生・3年生は学校で、先生や友達と「あたりまえ」のことに感謝しながら給食の時間を過ごしましょう。

